



おいちよう

令和2年10月 1日

発行 鶴瀬小学校No.8

049-251-0144・0149

文責：校長 松波徳美

学校教育目標 **かしこく《学ぶ》 やさしく《和す》 たくましく《鍛える》**

鶴っ子のめあて

にこにこ

きびきび

ぴかぴか



「がんばる心・あきらめない心」

— コロナ禍の中で学ぶこと 3 —

私は、耳が良く聞こえません。身体障害者の手帳を取得するほどではありませんが、両耳に補聴器を付けています。でも、人の声がなかなか聞き取れず、電話の対応が上手くできないし、たくさんの人が一斉に話すグループ討議などはとても苦手です。今まで、なんとか動作を取り入れたり、口元を読んだりして、あるいは、近くの人々のメモを見たりして必死に聞き取ろうとがんばってきました。でも、このコロナ禍で皆さんマスクをしていて、口元が読み取れません。また、換気が重視されるため扇風機が回っていることが多く、機械の重低音を補聴器がよく拾ってしまいます。それが始終、意味のない音に縛られるストレスとなっています。さらに、耳には、眼鏡、補聴器、マスクがかけられ、不快感があります。

この不快感が、臨時休校になった頃から約7ヶ月継続しています。できるだけプラスに物事を考え、エネルギーに変換しようと思っていましたが、それも疲れてきました。埼玉の三偉人の一人の塙保己一やヘレンケラーの略伝を読み返し、ハンディキャップを力に変えている人たちを見習い、自分を鼓舞しようかと試みましたが、所詮、器が違ふとあきらめの境地に至りました。

ですが、「いや待てよ」鶴瀬小のある児童の事が心をよぎりました。彼は、足に装具を付け、毎日登校しています。会うと、いつもさわやかな礼儀正しい挨拶をしてくれます。そのさわやかに頑張れる秘密は何なのか、ちょっと聞いてみたくなりました。「友達が支えてくれる。」「体育で走るのはいやだけど、走った方が運動になるし、体力がつくのでがんばって走る。」「いやだなあと感じていることは、友達に相談して解決策を練る。」…

教員をしていると、しばしば子供の素晴らしさに頭を垂れることがあります。いやなことから目を背けず、目の前にある現実に向かってしっかりと向き合い、あきらめず、がんばっている姿に、多くの勇気と元気をもらいます。子供たちは、希望です。毎日、626の希望の光に照らされる学校というところはなんて素晴らしいところなんだと思われました。前を向いて、あきらめないこと…また、明日からがんばっていきましょうと思います。